

令和4年度第1回庄内町地域包括支援センター運営協議会 会議録

- 1 開催日時：令和4年6月27日（月）13:25～14:15
- 2 場 所：庄内町保健センター 検診室
- 3 出席委員：佐藤一彦、金子絵美、上野豊、門脇俊宏、檜山澄美、森田義宏、齊藤学
秋庭道雄、佐藤幸基、田澤縁、池田博史
- 4 欠席委員：高橋未央
- 5 包括職員：包括課長 佐々木正人、包括係長 岡部美奈子、主任介護支援専門員 三浦舞
- 6 事務局：保健福祉課長 鶴巻勇、課長補佐兼福祉係長 永岡忍
主査兼介護保険係長 丸山昭宏、主査兼高齢者支援係長 阿良佳代子
高齢者支援係主任 佐藤敦史

-
- 1 開 会 主査兼高齢者支援係長
 - 2 委嘱状交付 保健福祉課長 (受取：佐藤一彦委員)
 - 3 会長あいさつ
 - 4 協 議 (進行 会長)

(1) 令和3年度地域包括支援センター事業報告について

【包括課】資料により説明

【委 員】虐待擁護関連勉強会の対象者を誰としたか。また、担い手養成講座に参加した26名の余目と立川の人数をお知らせしてほしい。

【包括課】虐待擁護関連勉強会については、公証役場から講義をいただいた。専門的な内容になった。居宅介護支援事業所のケアマネジャーや高齢者見守りネットワークの会の皆様や民生委員に声をかけ参加してもらった。内容的に難しかったため、課題としては地域の行政書士等からかみ砕いた内容で講義を受けたほうが理解できる内容となったかと思っている。

【委 員】権利擁護に関する研修会は毎年開催の事業となっているとのことだが、毎年開催することと定められているのか。知識を高めるよう長期計画されているのか。

【包 括】国からの指導があったかと記憶しているが、毎年開催とはされていない。庄内町は権利擁護として成年後見や高齢者虐待の研修を各年で勉強会を開催している。庄内町は一生懸命な状況と思っている。

【委 員】高齢者虐待等権利擁護は重要なことであると思っているが、参加者も貴重な時間を使って研修を受けている。聞いてよかったという内容とするため、誰を対象にするかポイントを決めて開催していただきたい。やりっぱなしではないように事業を行ってほしい。

【事務局】担い手養成講座人数は係の報告によれば、1回目11名、2回目12名となっているが、余目・立川の参加者人数はわからない。養成講座の内容については、1回目は余目第四公民館において開催し西遊佐地区まちづくりの会より地域での支え合いの活動についてお話を聞き、2回目も余目第四公民館を会場に、やまがた福祉移

動サービスネットワークより、住民主体でできる移動支援とその留意点についてお話を聞いた。

(後日、生活支援コーディネーターに人数の内訳を確認し委員に伝えた。余目 16 人 /立川 10 人 計 26 人)

【委員】この協議会の役割は、どこのサービスを受けても住民が平等なサービスを受けられるということが重要となる。2 回とも余目第四公民館での開催となっている。立谷沢からも来やすいところということで会場を選定したと思われるが、ぜひそういう配慮をしたことも記載し、多くの方から来ていただきたいことを PR していくことも重要かと思う。今後、会場の選定についても検討してほしい。

【副会長】認知症サポーター養成講座の実施状況における対象者はどのようになっているか。

【事務局】余目地域の小学校 3 校と余目中学校で開催した。講座受講の学年はまちまちであるが、2 年生から 4 年生の 1 学年の児童と、中学生は 2 学年の生徒が受講した。

【委員】認知症地域支援推進員の配置数について余目地域に 1 名、立川地域に 2 名配置となっているがこの配置数でいいのか。

【事務局】町から委託となっている。包括には 1 名ずつの配置となっている。資料 2 で説明する予定でいたが、山水園に 1 名と、今年度からはソラーナに 1 名の推進員の配置の協力を得ている。

(2) 令和 3 年度事業における分野ごとの地域課題について

【事務局】資料により説明

【会長】地域によって課題も違うため、それに対応した対応策となるので難しいことではある。制約もあり拡大できない、やりたいが実行する人がいない、逆に新たに事業を展開していくといった動きもある等、少しずつ拡大していけばいいのかなと思うところである。庁内会議をさらに充実させ、各課連携のもとで進めてもらえれば移動の問題等解決に向かうこともあると思う。委員の皆さんのもとには身近な問題でいろいろ意見が寄せられていると思うがいかがか。

【委員】認知症カフェについて、4 年度の開催会場について確認したい。

【事務局】余目は保健センター、立川は立川老人福祉センターを会場とする。

【委員】両方とも月 1 回の開催か。

【事務局】そうである。

【委員】町の規模から業務の見直す際の見極めが必要と思う。包括職員が相談会場で待っている相談会の意味があるのか。出かけていく等手法を考えていくべきではないか。今後町と相談してほしい。

【包括課】かねてから出前カフェを開催したほうがいいのではないか、地区に出向く等窓口を宣伝したほうがいいのではないかという考えがあるが、昨年度はコロナ禍で実現しなかった。地域密着型事業所と共同でのカフェ開催や、余目病院の物忘れ外来や MC I の検査と付随してできないか等考えていきたい。

【委員】ぜひ実現させてほしい。

【会長】事業をやって効果が出なければ何らかの対策を考えていく必要がある。既存の事

業と一緒にやる等検討してほしい。

(3) 地域密着型サービス事業所の指定更新について

【事務局】資料により説明

【委員】全員挙手、承認

(4) その他

【委員】(1)事業報告の中で認知症支援推進員の人数について、余目1名立川2名については、自分は含まれていないと思うがいかがか。

【事務局】地域包括支援センターの余目に1名、立川に2名配置されていた。その他、山水園の管理者が推進員となっている。回答に誤りがあった。訂正します。

5 その他 特になし

6 閉 会